
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
はじめての
ぼうけん記
2
2016/むぎしぼり

登場人物



キル

上級冒険者である凄腕の剣士。
アッシュの憧れの人。



エルム

少女のような風貌の僧侶の男の子。
おちんちんをしゃぶるのが大好き。

アッシュ



この物語の主人公。女手一つで育ててくれた母親に楽をさせてあげる為に冒険者となる。乳首がとっても感じやすい。

前回のあらすじ

立派な冒険者になる為に旅立ったアッシュ。手頃なモンスターの情報を得るために向かった酒場でゴロツキの男達に情報料だと言われ犯されてしまう。
エルムと名乗る少年僧侶に治療を施されたアッシュは戦いの出来ない彼の護衛を引き受ける事に。
実力を付ける為に挑んだ討伐戦でなす術もなくモンスターに蹂躙されてしまったアッシュ達だったが、そのモンスターをいとも容易く倒す剣士・キルが現れる。
憧れの存在であるキルとの邂逅にアッシュは彼に仲間になって欲しい、と懇願する。
「手を使わずに俺をイカせられたら仲間になってやる」そう言っておけばウブそうなアッシュは諦めるだろうと考えたキルだったがアッシュは懸命に口で奉仕を試みる。
思わず本気で欲情してしまいアッシュを抱いてしまったキルは仲間になる事を了承し、三人の旅が始まった……。

第五章・僕の胸の内

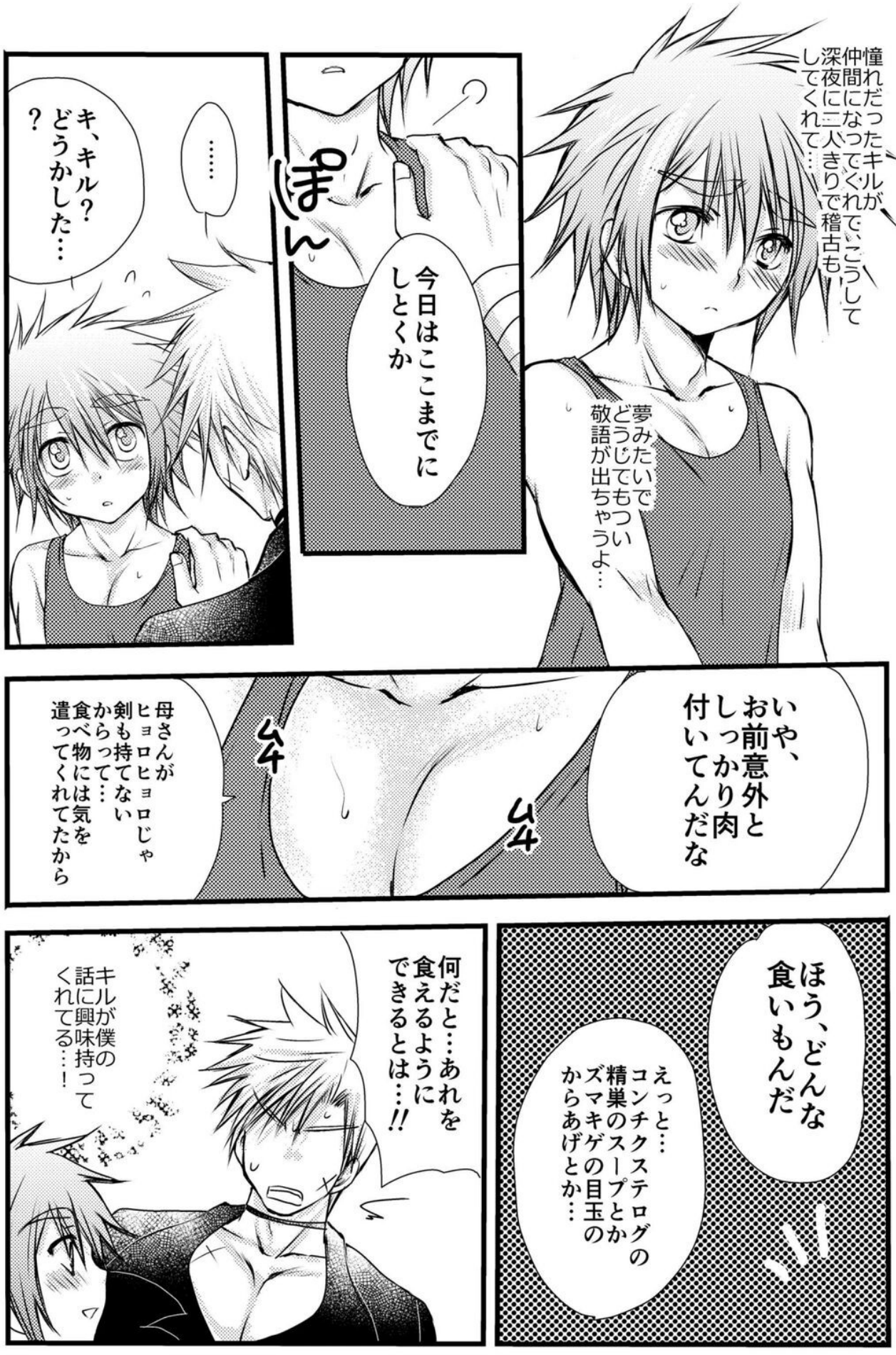



たあっ！
はあっ!!
振りがデカすぎる、
もっと脇を締めろ
う…


脇を締めて…


今度はお前のを口でイカせてやるよ
あんな事言ってたけど…あれから特に何もエッチな事されてない
べ、別に期待してる訳じゃないし
ふるふる
おっ、なかなかイイじゃねえか
たあっ
はあっ!!


アッシュの奴、
普段オドオドしてるくせに
イキイキしてやがる
まだまだ！
お願いします!!
そんなに俺との稽古が
嬉しいのかよ
ま、悪くないな
背後も気に
するのはいいが
前がガラ空きだ
まずはそこを
直せ
はい！
ありがとう
ございます
ったく、
敬語はやめろ
つってんだろ。
ムズ痒くて
いかん
すみませ…ごめん、
まだ慣れなくて…


憧れだったキルが仲間になってくれて、こうして深夜に二人きりで稽古もしてくれて…
夢みたいでどうじてもついつい敬語が出ちゃうよ…
今日はここまでにしとくか
ぽん
……
キ、キル？どうかした…？
いや、お前意外としっかり肉付いてんだな
ムム
母さんがヒョロヒョロじゃ剣も持てないからって…食べ物には気を遣ってくれてたから
ほう、どんな食いもんだ
えっと…コンチクステログの精巣のスープとかズマキゲの目玉のからあげとか…
何だと…あれを食えるようにできるとは…!!
キルが僕の話に興味持ってくれてる…！

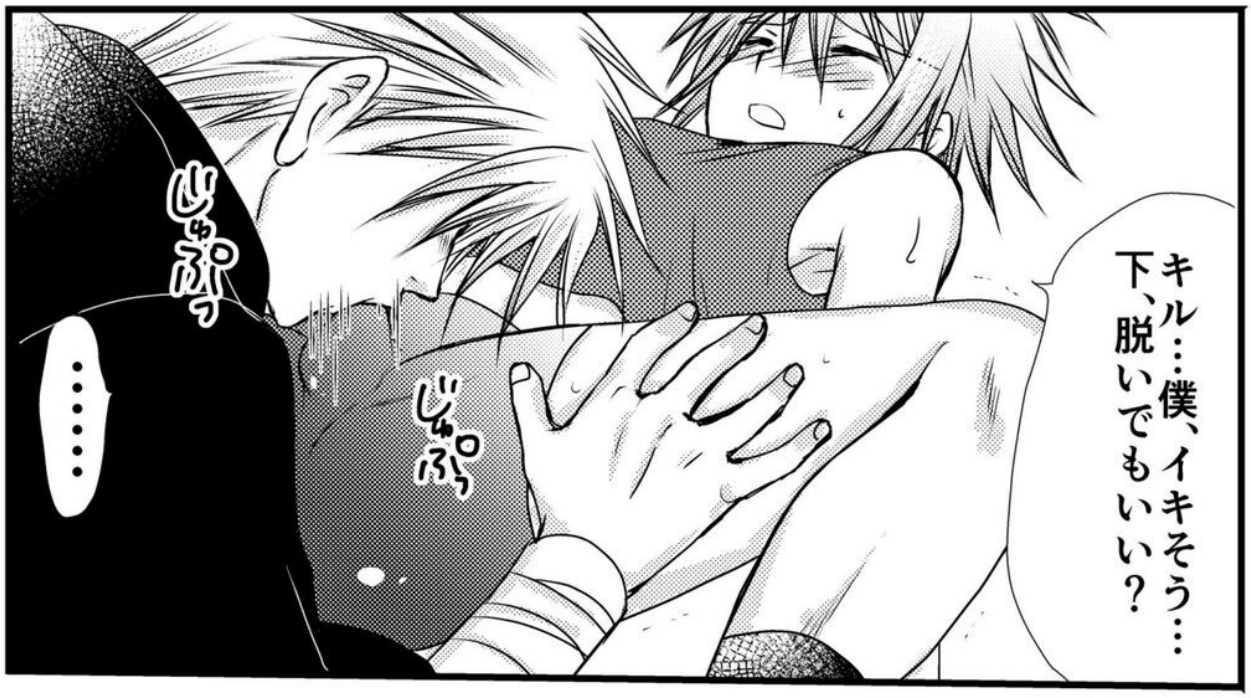

母親に感謝するんだな。
こんな立派に育ててくれて
うん！
母さんには一生頭が
上がらな――
…あ…
全く、いい
肉付きだ
落ち着け…
これは純粋に
肉付きを確認
してるだけ
かも…
ムニ
ムニ
フニッ
ひゃあっ!?


間違いなくHな意味で触ってる…
もしかして…この前言ってた事ここでしちゃうの…？
僕…やっぱり期待してる…？
ぎゅっ

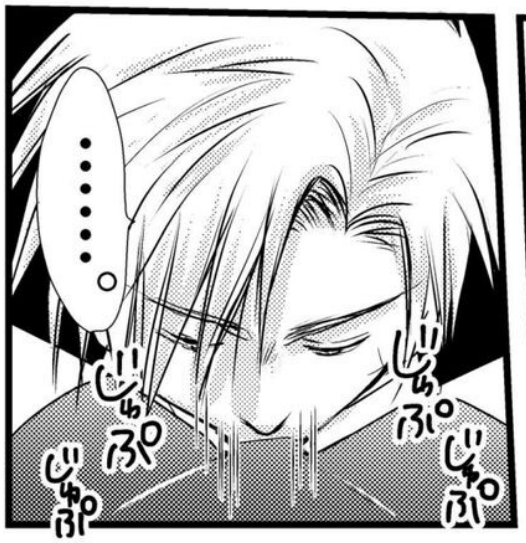

僕…今キルとキスしてる!!
え…?
ん?
硬直
嫌なのか?
ううん…僕キスするの初めてで…
そうか
ン…
ん…
…っ
さわ
さわ
どくどく


とさ…
キスだけで濡れてんな。ションベンみてえだ
あ、あう…そこ見ないで下さい…
んろっ
ひんっ
ぼ、僕、汗かいてるから汚いし臭いよ…！
だからこそイイんだろうが
はむっ
ひゃぁ!?


ほんとに汚いからダメ…!!
だ…ダメ…
ダメだって…言ってるのに…
はぁ
はぁ
くぱぁ…


キル…僕、イキそう…
下、脱いでもいい？
じゅぷっ
じゅぷっ
……

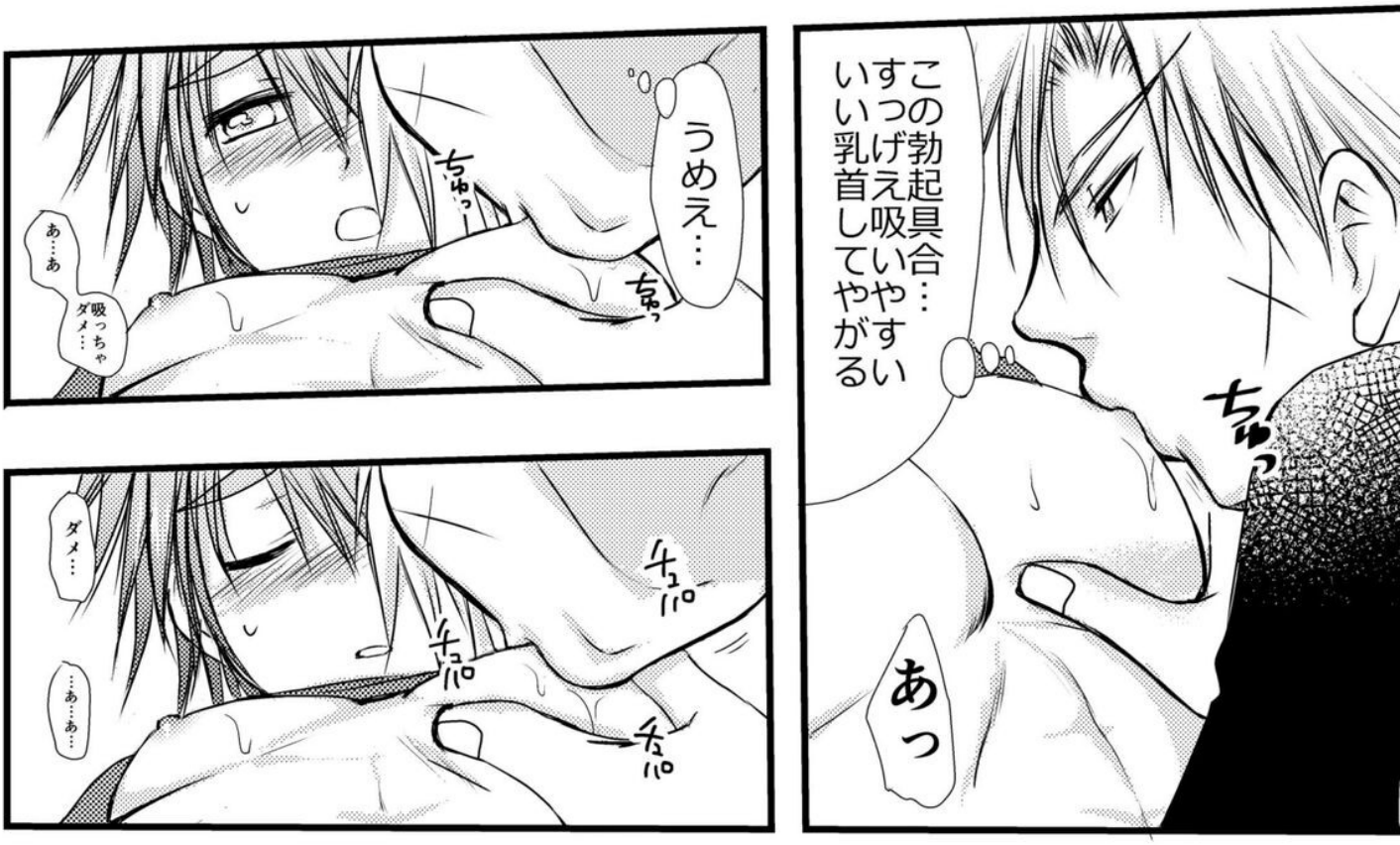

あの、
スパッツの中に
出ちゃいそう
なんだけど…


……。
じゅぷっ
じゅぷっ
じゅぷっ

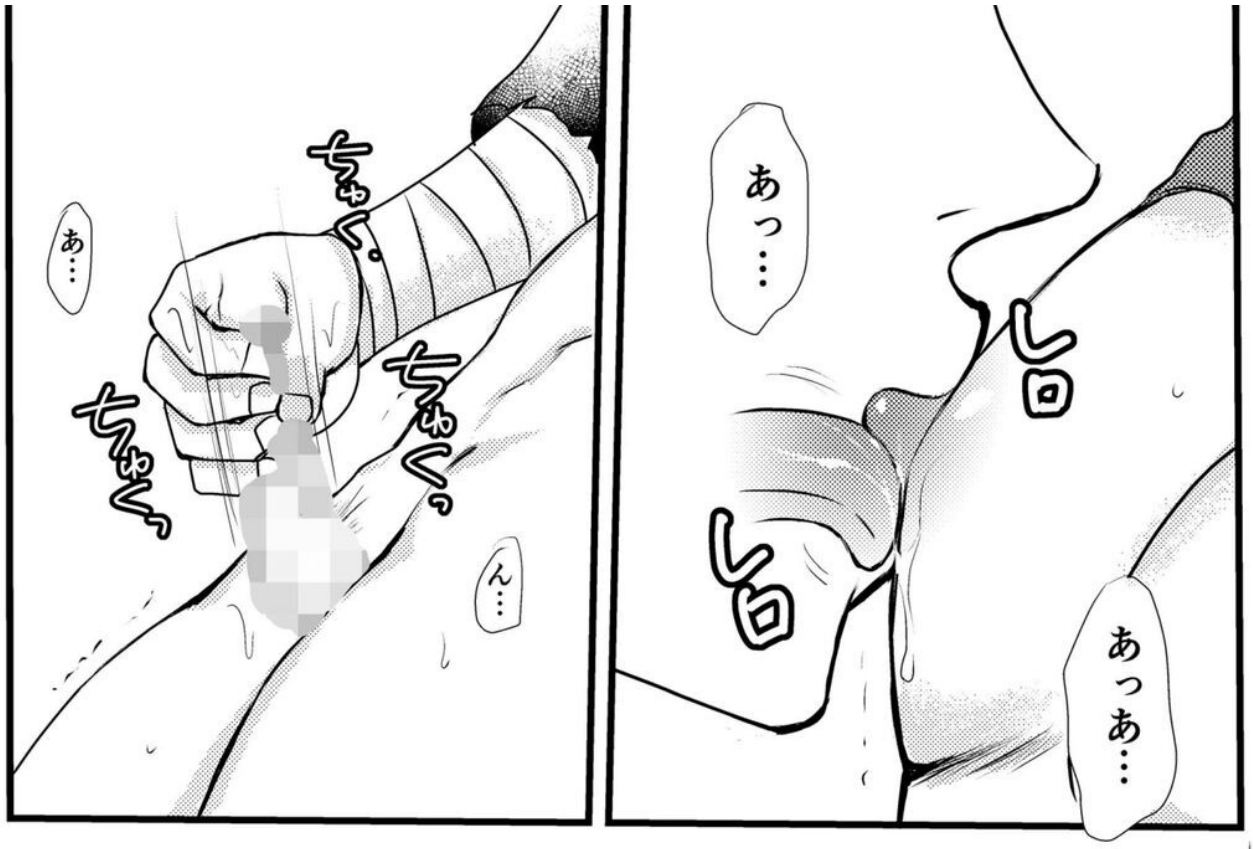

まさか
まさかこのまま
出させるつもり
なんじゃ…
あっ…
あぁ…ッ!!
ビュルビュクッ

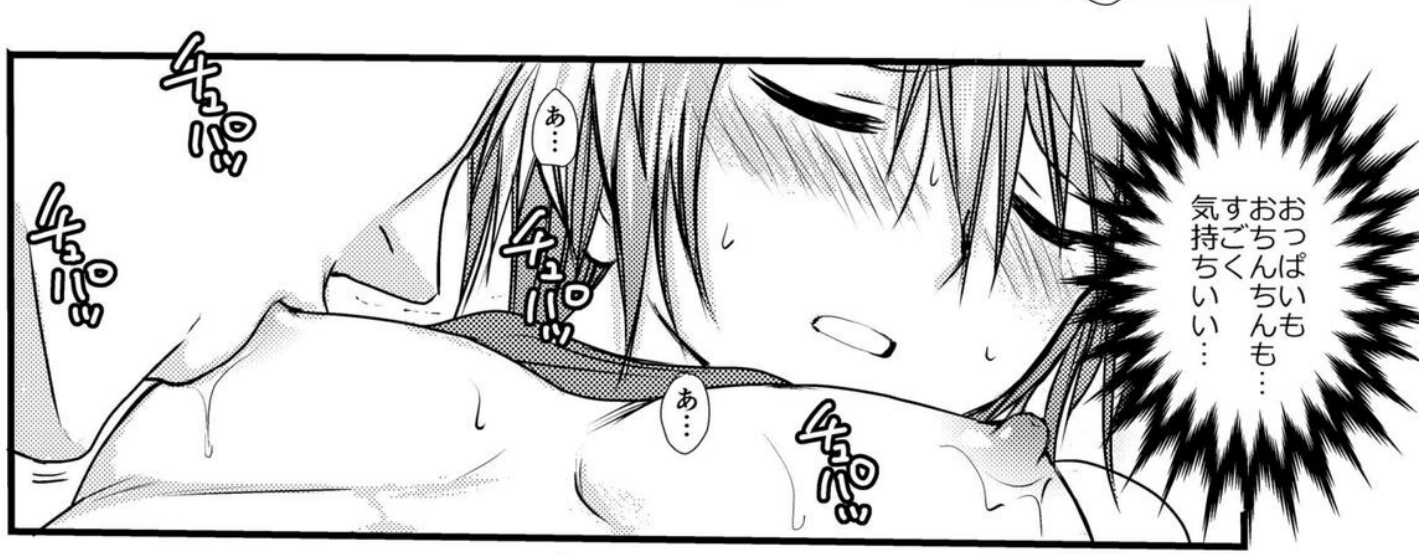

悪い悪い、ちとふざけすぎちまったな
♪
じゅるるっ
じゅる
キルのバカ…！僕…僕……!!
ああああ
あ…
スル…
あぁ…そんな じっくり間近で見られたら恥ずかしい…
ビキ
ビキ
ビキ


んんっ
ん？ああそういやお前乳首が弱いんだったな
あっあっ
ちょっと舐めてやっただけでコリッコリだな
あ…
あ…


この勃起具合…すっげえ吸いやすいいい乳首してやがる
あっ
うめえ…
あ…あ
吸っちゃダメ…
ダメ…
…あ…あ…


仕方ないだろ…
キルが弱いとこ
吸うから…
随分興奮してんな。
また勃ってんぞ
あ…
ちゅうう
じゃあこっちも
たっぷり吸って
やらんとな
んっ
んんっ
ちゅっ
ちゅっ
…あ…あぁ…
なでる
なでる


あっ…
レロ
レロ
あっあ…
ちゅく。
ちゅくっ
ちゅくっ
あ…
ん…


おっぱいも
おちんちんも…
すごく
気持ちいい…
チュパッ
チュパッ
チュパッ
あ…
あ…


すっげえ
濡れてんな。
ヌルッヌルだ
ペろっ


わっ
ゴロン
お尻の穴に…キルの息が当たってる…
れろ
ひん!?
れろ
ズニュ。
あっ、あっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ
あぁ…!
やっ…


キル…そこ…
恥ずかしい…
クチ
クチ
ヒク
ヒク
トロー…
こんなに
こぼして
勿体ねえな
ぐに
ぐに
ぢゅー
あぁあっ


スパッツ越しと全然違う…
ぺろ
ぺろ
はぁ
キル…お願い…僕…もう…もう我慢できない…
じゅぷ
じゅぷ
キルの唇や舌の感触が…ねっとり絡みついて…
ぐちゅ
ぐちゅ
はぁっ
…早く…挿れて…
!!
ふっ

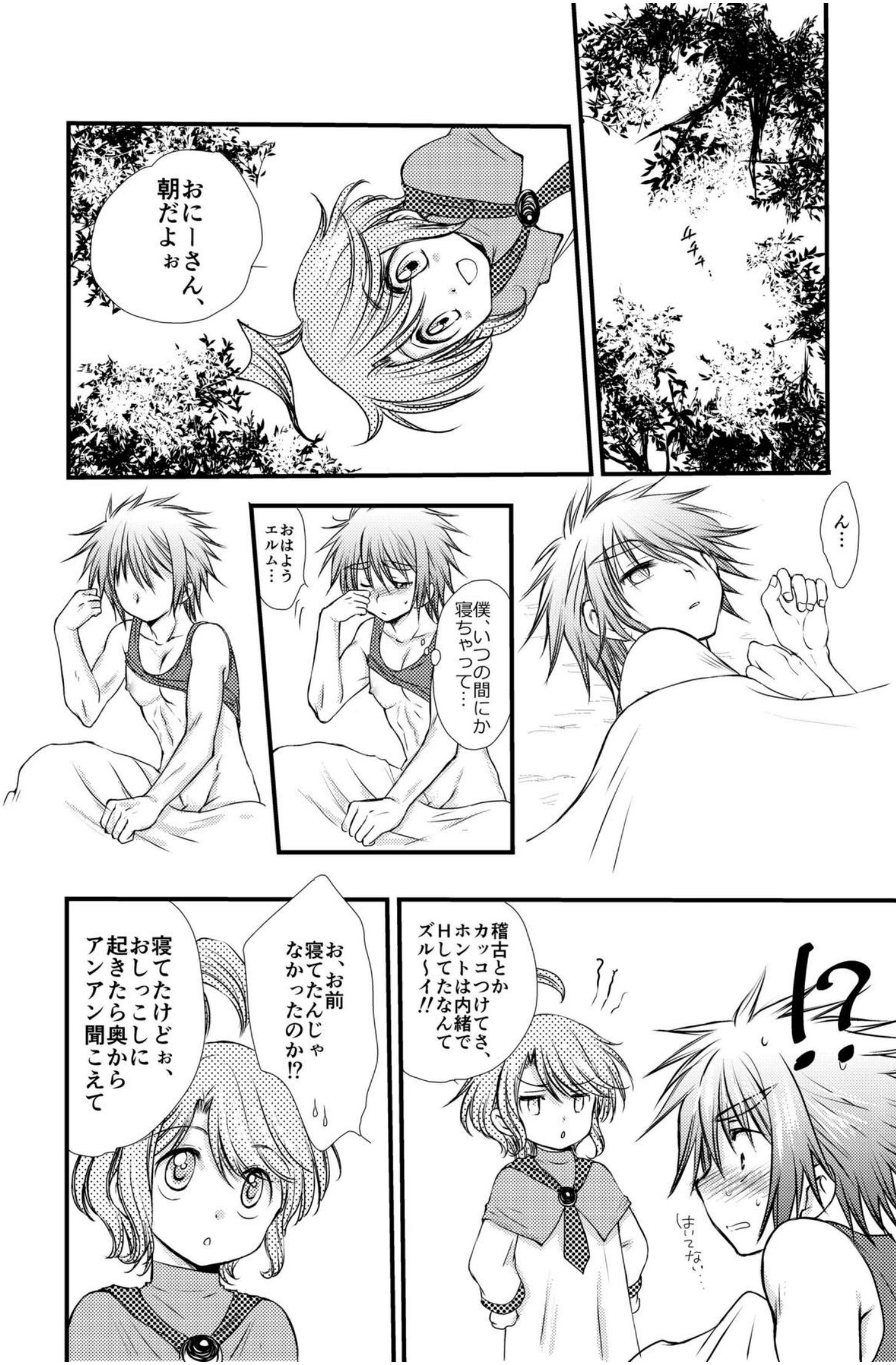

ナッ
僕にこんなに興奮してくれてる…
ドキ
いいのか？挿れっぞ…
ドキ
僕は…
ちゅくん
ヌメ…

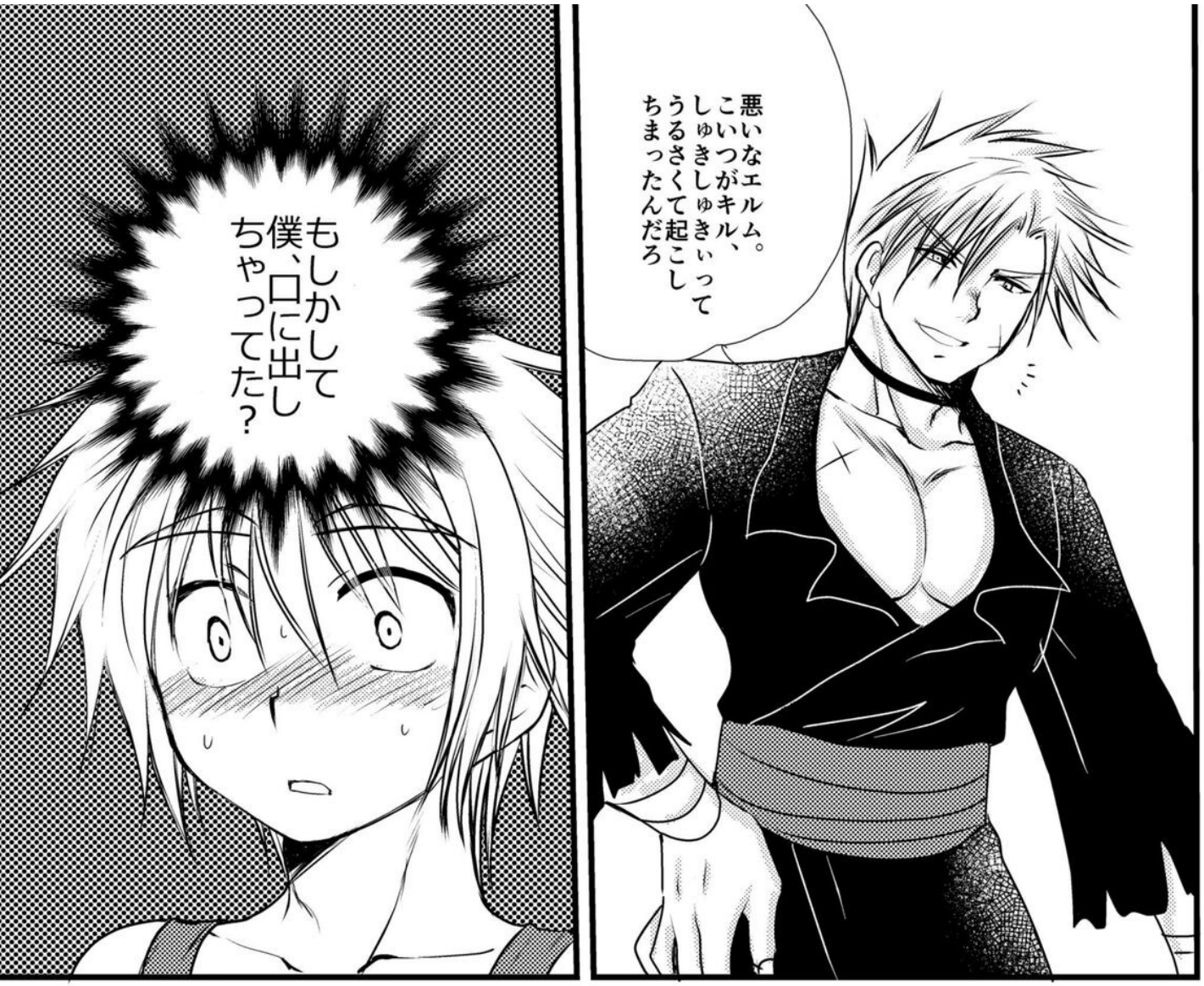

僕ははじめて、
自分の意思で受け入れた――
んぅ…!!
ズ…
う…あっ
ズズ…
ヌププ…
キルの
おちんちんが…
本当に
挿入ってる…
ズッ
ズッ
は,
は,


ヌチュッ
ヌチュッ
ヌチュッ
ヌチュッ
あ…
は…
あぁ……っ
ズルル…
あっ…
あ…
スプッ…
スプッ
あっ
スプッ
あっ
スプッ
ぐりぐり
ぐりぐり
んん…

僕を今抱いてるの…本当に…本当にキルなんだ…
お前の中、すっげえ気持ちいいな
ヌチュッ
ヌチュ…!


ビュルルッ
んっ
んっ
んん〜〜〜!!
アヴォ
アヴォ
アヴォ
キル…好き。
好きです…
あぁ…ッ
ズチュ
あっ
あん
ズチュ
ズチュ


おにーさん、朝だよぉ
ん…
僕、いつの間にか寝ちゃって…
おはようエルム…
稽古とかカッコつけてさ、ホントは内緒でHしてたなんてズル～イ!!
!?
はいてない…
お、お前寝てたんじゃなかったのか!?
寝てたけどぉ、おしっこに起きたら奥からアンアン聞こえて





告白を聞かれていた恥ずかしさでいっぱいで、エルム達の会話も耳に入らなかった…。



第六章・目指した理由

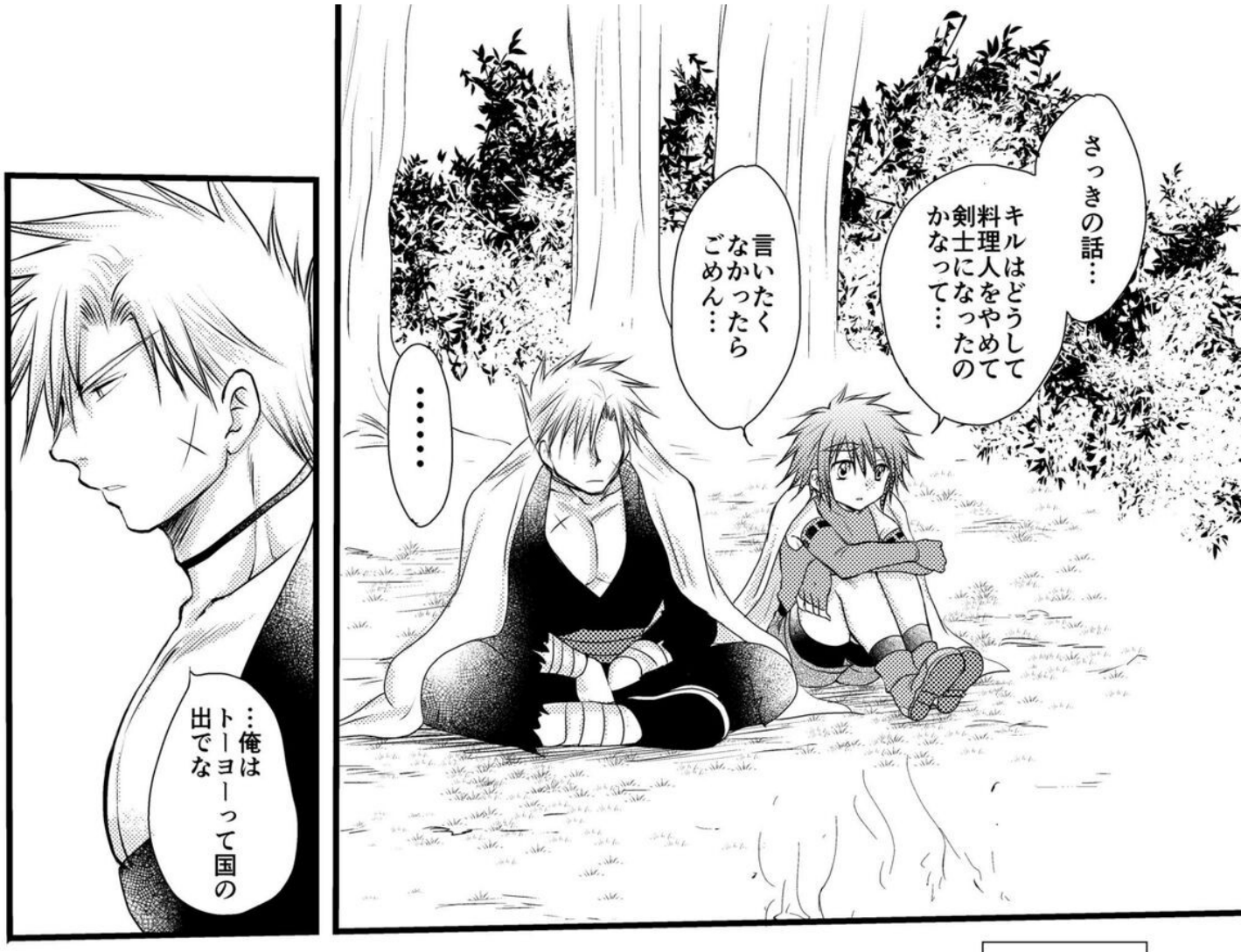

やっ!!
ふう…今日の晩ごはん確保…
すっご〜い!おにーさんだいぶ強くなったんじゃない?
そ、そうかな?キルとの稽古の成果が出てきたのかも…
おっ、仕留めたかでかしたぞ
ねぇキルぅ、こいつっておいしいの?
ん…こいつはコンチクステログじゃねえか

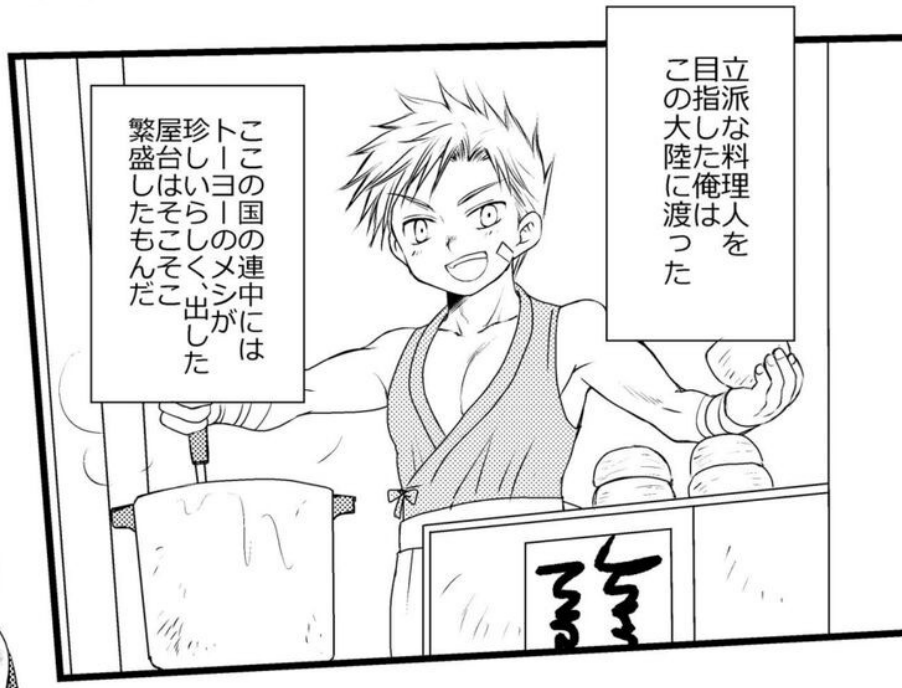

こいつは俺が
捌いておく。
お前達は向こうで
待ってろ
はぁ――い♥
おなかすいたよぉ…
ごはん、まだぁ…？
キル、遅いね。
どうしたんだろ
クソ…
ダメだ…
これも
違う…
一体どれで
コイツの臭いを
消せば…
やっぱトーヨーの
香草がねえと…
ブッ
ブッ
何だお前達
どうして
ここに来た
えっ…
キルが遅いから
気になって…


なにこれスープ？味見していい？
…それはまだ未完成だ
えぇ――!!ちょっとくらいいいじゃないキルのドケチ―!!!
…知らねえぞ
わぁーい♥いただきまぁーす♥
ズズ…
これ…まずいよぉ…
えっ
だから未完成っつったろ


そんなにおいしくないのかな
ズズ。
ね。まずいでしょ？吐いちゃいなよ
母さんのと同じ味だ…
わぁ…懐かしいなぁ…
…気に入ったなら全部食っていいぞ
エルム、お前にはこれをやる。口直しだ
おいしい…!!
すっご〜〜い!!キルってコックさんみた――い!!
…昔そういう仕事をしてた事はある

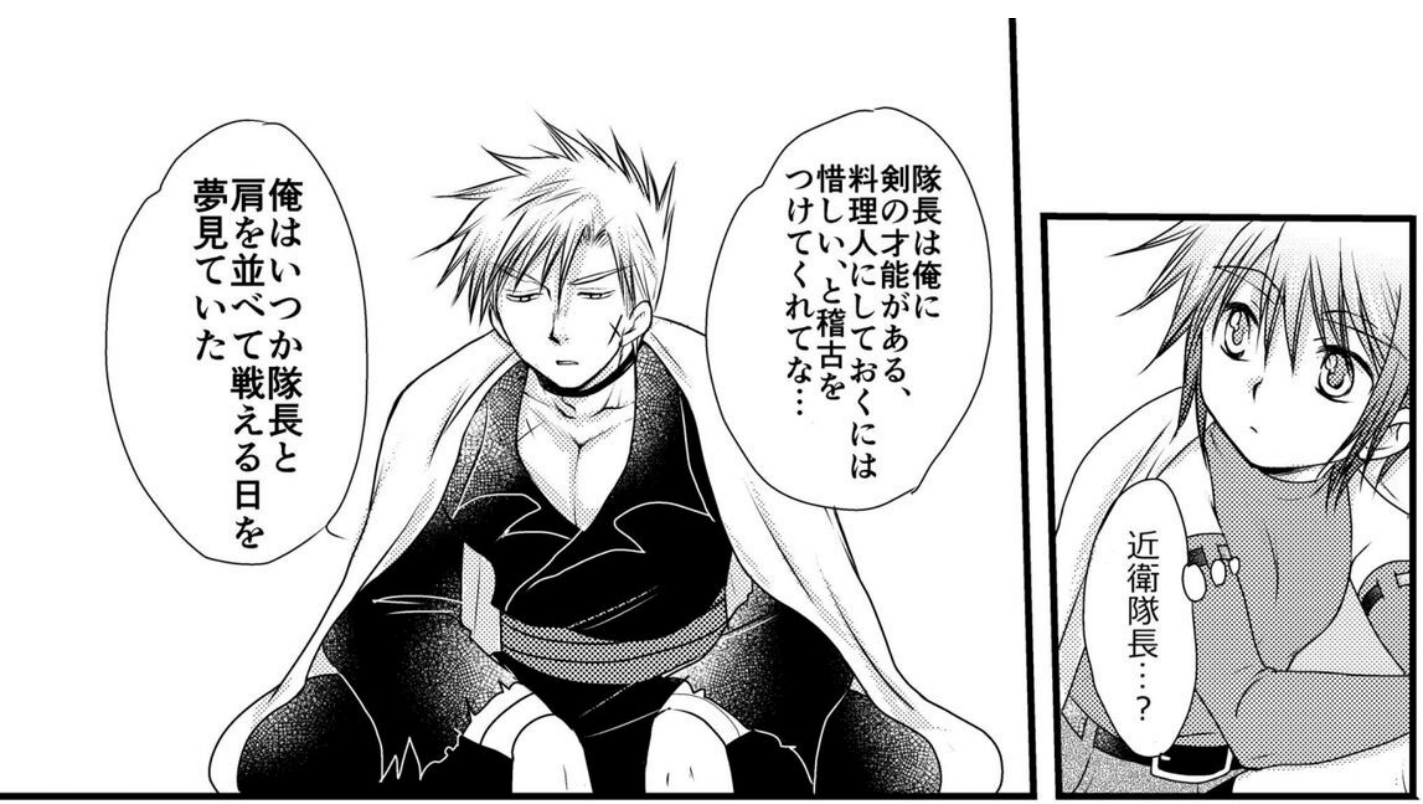

え…
昔の話だ
……。
むにゃむにゃ…おいしい…
満足そうに寝ちゃって…
キル、ちょっといい？
どうした


さっきの話…
キルはどうして料理人をやめて剣士になったのかなって…
言いたくなかったらごめん…
……
…俺はトーヨーって国の出でな


立派な料理人を目指した俺はこの大陸に渡った
ここの国の連中にはトーヨーのメシが珍しいらしく、出した屋台はそこそこ繁盛したもんだ


そこで出会った近衛兵の隊長にえらく気に入られてな。俺は城の厨房に入り、やがてその人の付き人に抜擢された


トーヨー…それでキルの服はキモノとかいう民族衣装に似てるんだ…

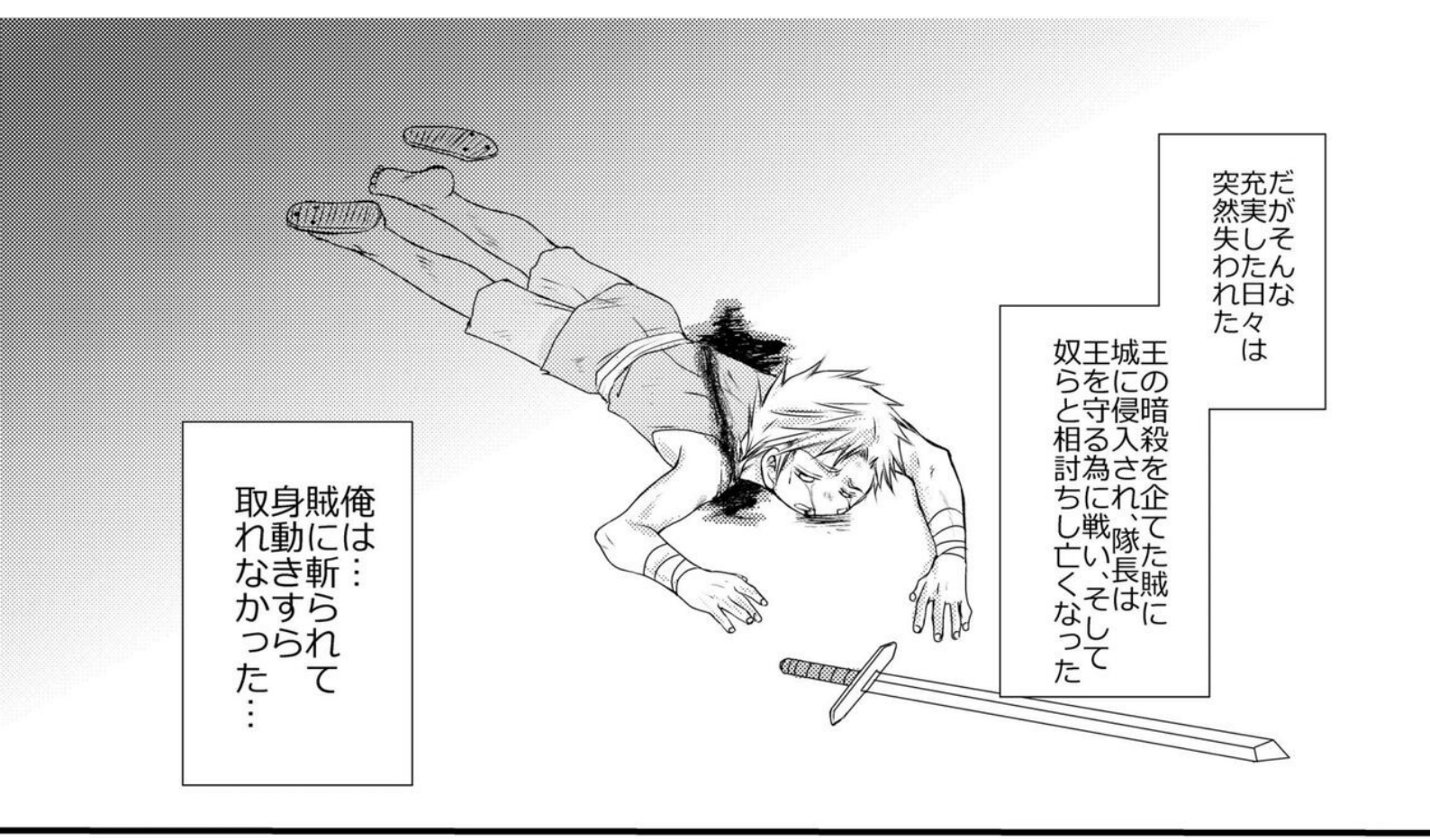

隊長は俺に剣の才能がある、料理人にしておくには惜しい、と稽古をつけてくれてな…
俺はいつか隊長と肩を並べて戦える日を夢見ていた

近衛隊長…？


キルはもしかしてその人の事…
ああ、好きだった


好きだった……。
ズキ…
遠征中は夜伽だって悦んで務めたもんだ。若かったな

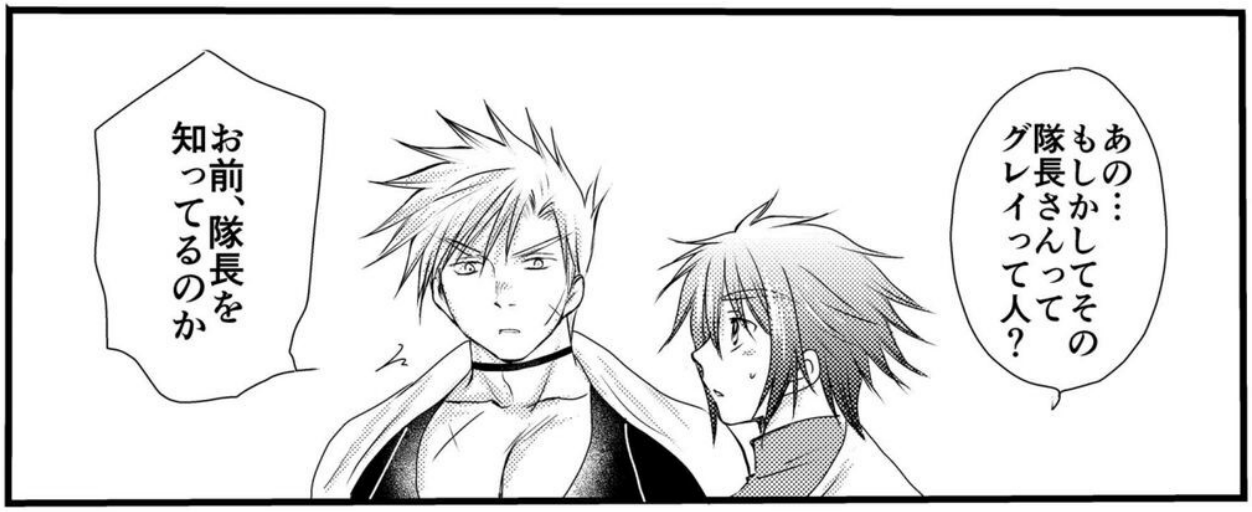

よ、夜伽？
知らねえのか？奉仕して性欲を処理してやるんだよ
!?

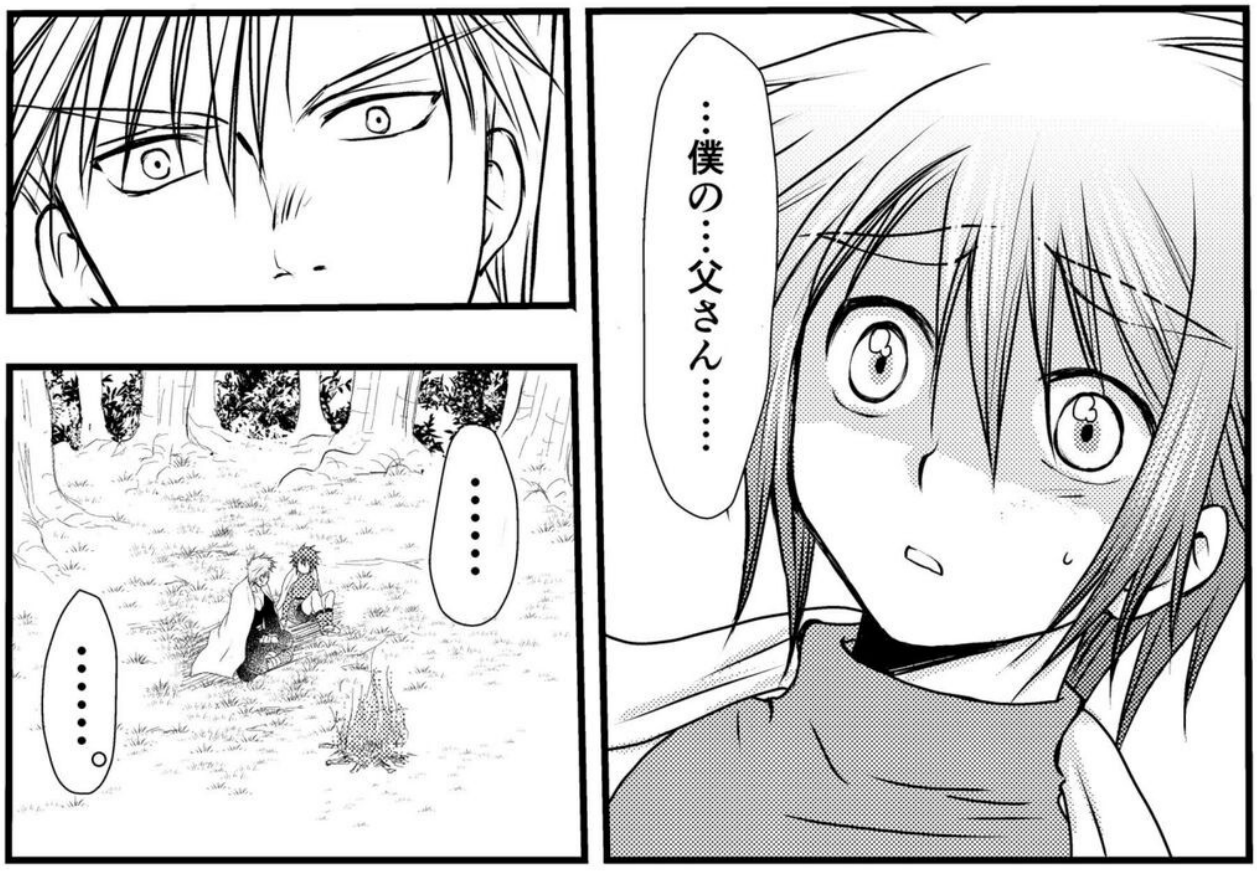

だがそんな
充実した日々は
突然失われた
王の暗殺を企てた賊に
城に侵入され、隊長は
王を守る為に戦い、そして
奴らと相討ちし亡くなった
俺は…
賊に斬られて
身動きすら
取れなかった…


俺が…
俺がもっと
強ければ…!!
そうすれば
あの人が命を失う事は
なかったかもしれん…
だから俺は
料理人をやめて
剣士になった
いつか仇を
討てるくらい
強くなる為にな

ちょっと待って。

王の暗殺？
相討ちした
近衛隊長？






初めてお前を見た時、確かにその髪と瞳の色にグレイ様を思い出した…
アッシュという息子がいる事は知っていたが…まさかお前が…
もしかして…キルが僕に触れて来るのは、僕の中に父さんを見ていたからなの…？
僕の事なんか見てなかったんだ
僕は…僕は…!!
落ち着け
違うそうじゃない
僕は…僕は父さんの代わりじゃない…!!
ボロ
ボロ
キルが僕の事求めてくれて嬉しかったから…全部捧げたのに…


馬鹿野郎が。
毛と眼の色以外
グレイ様とは
ちっとも
似てねえよ
でも…
ん…
アッシュ
俺が今
惚れてんのは、
お前だ

惚れてるって…
キルが僕を好き…？
うそ…

お前は俺が好きでもねえ奴にキスするとでも？
い、いや、そうじゃないけど

だってキルは上級冒険者で街に出てもモテるし僕みたいな貧相な奴じゃつりあわないし…

女性に興味なし
あら～ん イイ男～♡
一晩どお？

Hな事してくるのもつまみ食いみたいなものだって思ってた…

つまみ食い？
俺は皿まで食ってやりたいがな


キル…


あ…
舌が…
にゅる


こ、こうでいいのかな…？
クチュ…


もぞ…


ひゃっ
くりっ

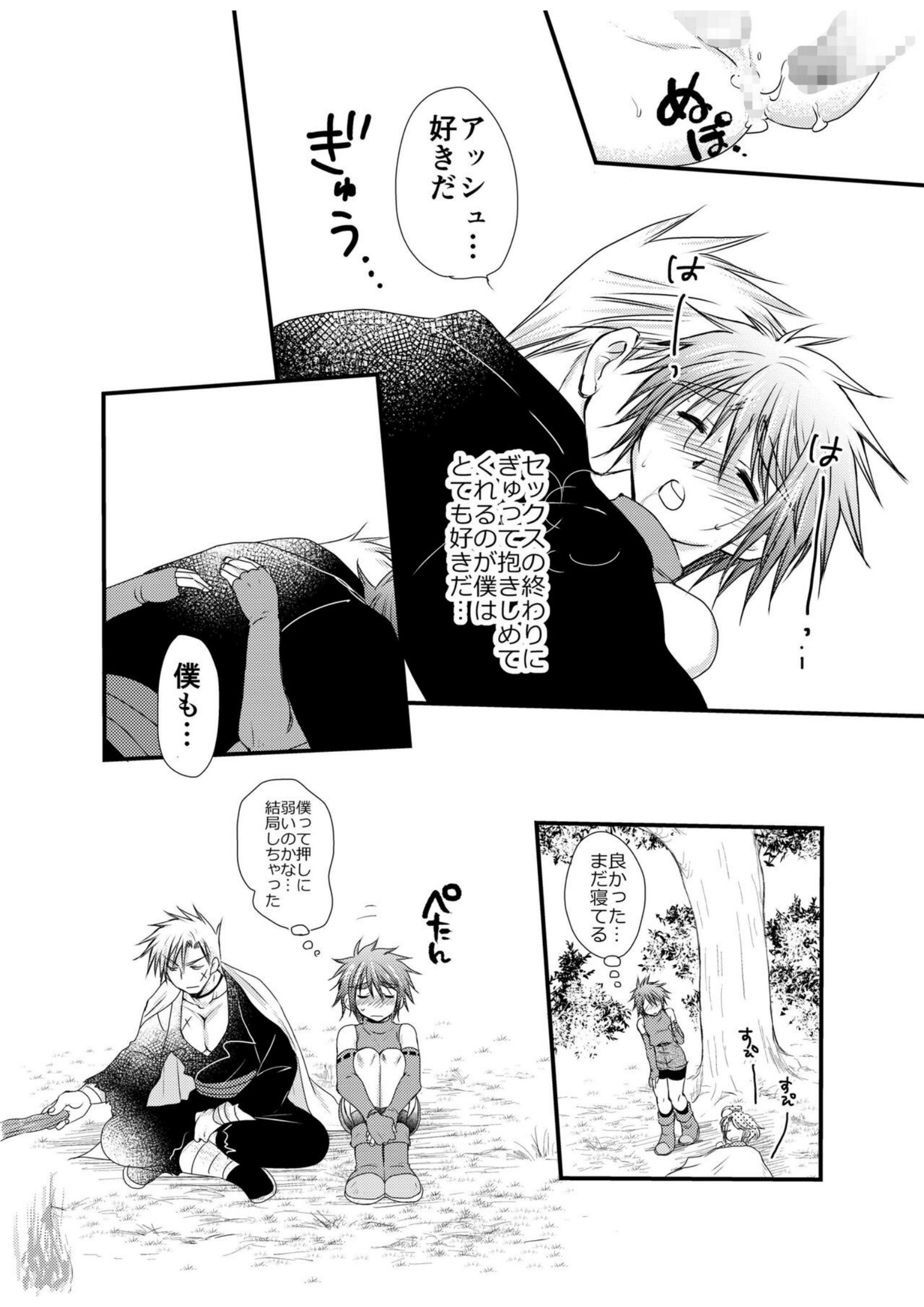

これ以上はダメだよ…エルム起こしちゃう
くにっ

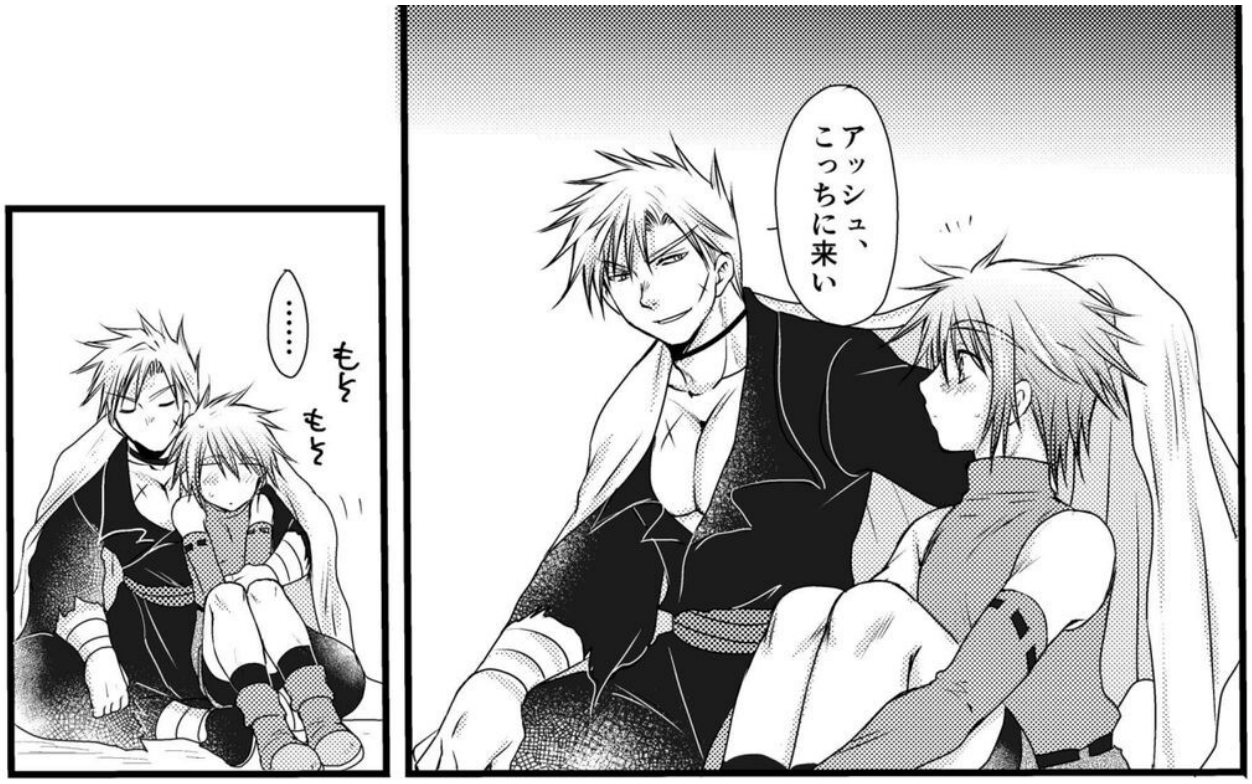

こんな状態で途中でやめて本当にいいのか？
もこ…
!!
!?
熟睡したばかりだ。そう簡単には起きねえよ
じゃ、じゃあちょっとだけ…
おう
ちょっとだけだからね……
ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ
さわ
さわ
んッ…
ん…


ん…ん
なに声抑えてやがんだ？出せよ
ぐり
ぐり
んっ
ちゅっ ちゅっ
全然ちょっとじゃない…！
んっ
んっ
んっ
だ、だって…エルムに聞こえちゃう…！
あっ
ヌプ
ヌプ
だから聞こえねえって。ま、聞かれた所で今更だがな
ぬち…
ズププ…
あ、ぁ……！


あっ
あ…
は…
やべぇ…
すつげぇ
イイ
あっ
あぁ…
ンッ
あっ、あっ、
あっあっ…！
イッちゃう…！
ビュルッ
あっ
あん
あ、あ、
ダメ…！
あんっ
あはぁっ


ああ…
終わっちゃった
…
ドプっ
え…？
ムニュッ
ぞくっ
ぞくっ
あ…はぁ……♥
モミ…
モミ…
ぴゅうっ
ピュルルルッ
ピュー


ぬぽ…
はー…
はー…
セックスの終わりにぎゅって抱きしめてくれるのが僕はとても好きだ!!
ぎゅう…
アッシュ…好きだ
僕も…
すぴー…
すぴー…
良かった…まだ寝てる
ぺたん
僕って押しに弱いのかな…結局しちゃった


アッシュ、
こっちに来い
もぞ
もぞ
……


俺は今まで
グレイ様の仇を
討つことだけを
考えてきた
ひたすら
強さを求めて
がむしゃらに
戦って…


だが、仮に仇を
討てたとしても、
その後に何が残る？
それを考える様に
なっていた
アッシュ、お前と
旅を始めてからだ

いまもグレイ様の仇を討ちたいという気持ちに変わりはないが、きっとそれを達成したら俺は生きる目的を失うだろう

そんな時にお前と出会い…嬉しそうに修行する姿を見て俺の中で何かが変わり始めた

コイツの成長を見守ってみるのも悪くないんじゃねえかって…お前が俺に新しい目標をくれたんだ

ありがとうな

ぼ、僕は何もしてないよ？





そして剣術と、
セックスを叩き込まれる
のであった…。

二冊目となりました冒険記、楽しんで頂けましたでしょうか。
今回原作小説とは特に六章の展開、セリフなどを漫画用にかなり変更して描きました。
(小説版六章ではアッシュ君の方から抱いてと懇願しておりました)
前回よりはBLらしくなってくれてるかなぁと…

それではまた次の機会がありましたら。

2016.11　まぶき



発行・むぎしぼり／まぶき
2016.11.29
mabukishibori@gmail.com
pixivID:2475464
twitter@mabuki_shibori



2016·むぎしぼり